Department of Science and Engineering

国立科学博物館 理工学研究部

研究者紹介 **私の研究**

理工学研究部

理化学グループ

西城 恵一（さいじょう けいいち） 研究主幹

『天文学史資料の掘り出し物たち』

現在、当館理工学研究部全体で「近代日本黎明期の科学技術の発展史の研究」を行っています。私は天文の分野で、望遠鏡などの機械器具の資料を通じ、日本の天文学の発展や一般への普及について探っています。その課程でごく最近であった「掘り出し物（?）」をいくつかご紹介します。

■ 国産初の反射望遠鏡（1926年9月）

国産初の口径15 cm 反射望遠鏡です。鏡は京都大学の中村要（なかむら かなめ 1904–32）が製作しました。架台は西村製作所製。残念ながら現物は残っていません。

■ 日本最初期の学術用反射望遠鏡

1920年に輸入され、京都大学天文台に備え付けられた口径10インチ反射望遠鏡です。製作はジョン・ブラッシャー（米 1840-1920）です。反射鏡は京大に現存していますが、筒と架台を見つけました。復元できると面白いと思っています。

ブラシャー望遠鏡 筒部

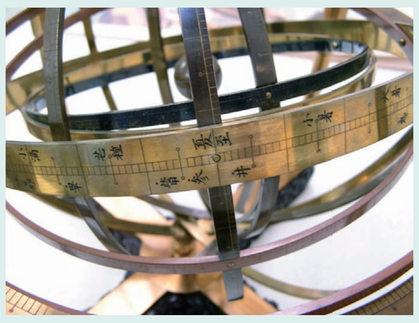
ブラシャー望遠鏡 架台部

■金属製渾天儀（大野規周 作）

大野規周（おおの のりちか 1820-86）は江戸に三代続いた天文観測器具製作者です。

この渾天儀は明治7（1874）年に製作されたもので、規周が造幣寮出仕の時期でした。目盛はきれいに刻まれており、江戸末期から明治初期にかけての、天文機器製作技術者の制作物として非常に価値の高いものです。

学習院大学 所蔵



部分

研究員に聞いてみました！

1）専門は何ですか?

天文学です。資料に基づく日本の天文学史の研究と変光星（明るさが変化する恒星）の観測による研究を行っています。

2）研究者になろうと思ったきっかけは何ですか?

子供のころからの「天文少年」でした。中・高校生のころは火星や木星の観測などをおこなっていました。そのまま、天文学者になりました。

3）最近の研究活動で、最も興味深かった出来事は何ですか?

江戸時代の天文学者渋川春海（小説・映画で話題となった「天地明察」の主人公）です。マルチ能力者の春海が最後に神道家（土守神道を創始）となる。

4）研究者になりたい方に一言アドバイスを！

好きであることがいちばんですが、最後は体力です。根気が持続するように、体と心の健康に気をくばりましょう。